

第2回守山市都市計画マスタープラン策定検討委員会 意見への対応

着色のものは、検討委員会における回答内容

1 スケジュール

項目	意見の内容	発言者	対応
議論回数	スケジュールがどれだけ柔軟なのかを聞きたい。	石川委員	2か年の枠は、変わらない。場合によっては回数を増やすことも考えられるが、基本的には示したスケジュールで策定したい。
	今回も含めて2回しか中身の議論がないという印象も受けた。場合によっては、検討会議の回数を増やすこともあり得るのか。	岡井委員長	

2 まちづくりの検証について

項目	意見の内容	発言者	対応
地区計画 検証	目田川沿いを交流できるような自然環境を生かしたものにするとところがバックヤードになっている。地区計画が守られていないことに対して対応が必要だと思っている。	横山委員	既に決定した交流ゾーンの振返りは、今後地域別構想や具現化方策の検討の際に触れる予定としている。
	都市マス策定して、それが運用されるようになっていないのであれば、議論する意味はないと思う。そもそもなぜ計画と違うものが建ったのか、都市マス全体に通じる話だと思う。	石川委員	
実績評価	市として取組実績をどう評価しているのか。最終目標は、全体構想にあるような賑わい、活力がある、いきいき暮らせるところにつながる。実績が目指す方向に向かって、どれくらい役にたったのか、修正の必要があるのか、新たな取組が必要なのかを検証すべき。	松島副委員長	人口を基準として考えれば増加傾向であるため、実績は、一定評価できる。 このため、目指すべき方向に向かうことができている。

3 現状および課題について

項目	意見の内容	発言者	対応
都市計画の前提	都市計画の仕組み自体が、成長することが前提で今までずっと続いてきている。人口が減り、まちが縮小して、20～30年先に都市計画自体が、どういう機能を果たしていけばいいのか、前提の共有の認識はどうかを教えてもらいたい	横山委員	【岡井委員長】場当たり的に国が制度をつくる中で、現在は、自治体が工夫せざるを得ない状況にある。全体方針として、駅周辺の交通便利性が高い所で密度を上げる方針は、できることだと思う。
土地活用のバランス	土地を活用していく一方で、暮らしとしてデメリットもある。このバランス感覚が大事だと思うが、バランス感覚、比重を聞きたい。	石川委員	【森中市長】今進めているもので十分。守山の良さであるバランスを崩さないようにしていく必要がある。検討委員会での議論でもあると思う。
	感覚的な答えではなく、指標として数値的なものがあればよいと思う。	石川委員	
	開発前提になっているが、公園を新たに整備するのではなく、畑、田んぼをリニューアルし、畑を公園として運用するようなことも都市マスに入れなければいけないのではないかと思う。	石川委員	【土地利用方針】観光・レクリエーション地隣接農地は、農業体験などを促進し、それ以外は、担い手確保の支援等継続した農地の活用を促進する。市街化区域内農地は、農業体験機会の創出などの保全活用を行う。
	放棄地になるよりは、市民農園的な制度をつくって、市で募集して管理している団体もある。	岡井委員長	
耕作放棄地等対応	これから耕作放棄地、遊休農地の畑地が増えていく一方だ。できれば、荒れ地を使う公園や再利用できる計画をしていただいたらよい。	本城委員	市街化区域内農地は、農業体験機会の創出などの保全活用を行う。
	耕作放棄地の問題は、土地利用の話なので方針は都市マスの中に書き込んでほしい。	岡井委員長	
住宅地	駅周辺の密度を上げ、他方で守るべき市街地もある。そこは、公共交通の手当てをし、老朽化したインフラ、都市施設等があれば整備をして、安全安心に住み続けられるようにする。積極的に維持する住宅地の方針は、都市マスの中でも記載することができると思う。	岡井委員長	【土地利用方針】公共交通の利便性および人口の集積状況や今後の見込み等を考慮して設定した居住誘導区域に居住を誘導し、人口密度を維持する。

項目	意見の内容	発言者	対応
インフラ 老朽化	下水管の重点調査において播磨田町で緊急度1が確認された。インフラが老朽化していることに対しての課題をここに挙げた方が良いと思う。	横山委員	【都市施設整備等の課題】緊急性の高い施設の耐震化についての対応が必要（追加） 【下水道】更新および耐震化
公共交通	高齢者の免許返納、買い物難民等高齢化に対して今後生じる問題が、公共交通ネットワークの構築だけで片付くのか、課題としてあると思う。	横山委員	【公共交通】利便性および安全性向上のためのハード対策と親近感を高めるためのソフト対策を組み合わせる。 くるっとバス、もーりーカー等
	交通の話は、都市計画の内容になる。アンケートで利便性が悪いと答えたのはおそらく駅から遠い所で、バス便をどうするかは、全体構想の方針の中に書き込む対象かと思う。	岡井委員長	
人と建物の高経年化	築40年以上のマンションは、人が高齢化し、建物も高経年化する。課題として触れておいた方が今後の方針を出すときに良いのではないかな。	横山委員	【土地利用の課題】追加
スマート化	スマート化は、個別に素早く対応ができ、データを素早くとって素早くアプローチすることだと思う。改善していくことがあると思う。そういうことも都市マスに入れてもよいかなと思う。	石川委員	【計画の推進方策】追加
まとめきれない課題	1年くらいでまとまらない・わからない課題をしっかりと抽出しておくことが重要だと思う。	横山委員	【計画の推進方策】新たな章を追加して対応
	全体では緩やかな増加傾向がもう少し続くが、昭和45～平成17年に入った人の子世代は、守山市外に流出していると考えられる。課題を上げたうえで、都市マスの中で今後5年間で検討する仕組み、推進体制の書き込みが必要ではないかな。	横山委員	
	地区別での人口動態、特に高齢化率を踏まえて課題を明記することは必要だと思う。一方で集落型地区計画は、人口維持が目的だったはずだが、200%に増えるアンバランスな所もある。どういう方針で臨むのかは都市マスの検討事項だと思う。	岡井委員長	

4 市民アンケートについて

項目	意見の内容	発言者	対応
設問対象	問1は、身近な地域を対象にしているが、問2以降の設問は、どの範囲を問うているのか分かりづらい。	松島副委員長	問2、問3-2はどの範囲かを明記する。

5 守山市都市計画マスタープランの構成（案）について

項目	意見の内容	発言者	対応
将来の課題	基本的に現状データから予見できる課題が整理されている。一方で、近隣市で課題になっていたり、守山市でも10年後課題になりうるかもしれないことについては、入っているのかいないのか。それを都市マスの中にどう反映するのか。	大庭委員	【森中市長】今後起こり得ること、深刻化し得ることも含めているつもり。先行自治体の課題を勉強しながら、守山なりの対策を行っていく。
	将来起きるかもしれない課題として、ごみの問題がある。太陽光パネルの処分やサイディングボードは、硫化水素が出る。それはサステナブルなのか。建物を建て替えたいがごみが出てきてということもある。再利用まで考えたほうがいい。	石川委員	【森中市長】担当部局に確認する
	都市マスの主な取組実績、今後起きるかもしれないことは、今回の資料では社会情勢の変化があるが、アンケートの結果も全部含めて、全体の課題が何か整理をしたうえで、まちづくりの理念や目標が出てくるのではないかな。	横山委員	アンケート集計速報で抽出
	もっとこういう課題もあるのではないかなについては、事務局に意見を出してもらいたい。	岡井委員長	
都市計画の目標 サステナブルなまち	「サステナブルなまち」「ふるさと」、人口増加から減少に対応するという話のイメージは、今いる子どもが大人になって守山市に戻って住んでくれるサステナブルのイメージか、外から人が入って来て人口が維持できたらいいということか。	石川委員	【森中市長】新しく守山に住む人も含まれるが、守山で生まれ育った子どもたちが住みたいと思えるまちづくりだと思う。
	都市マスで子どもに対して何か施策としてあるのではないかな。それは高齢者にもいいことがあると思う。	石川委員	【森中市長】当然大事な観点で、通学路の安全などは、いろんな分野の計画にあるが、都市マスでどう入れるか
	歩行空間の確保は、子どもには大事で、高齢者にもそれは大事だ。居住空間では、車は速度を落と	岡井委員長	

項目	意見の内容	発言者	対応
	して、人を中心にする、歩きやすい空間にすること、都市マスの中で十分に書ける。		の議論は、必要かと思う。
	子どもと高齢者は、都市計画としても重要なヘビーユーザーなので、当然挙がる項目ではないかと思う。加えて、バスのニーズもあると思う。	石川委員	【都市施設整備等の方針①道路】ユニバーサルデザインの考え方導入
	全体構想の中に⑤が新規追加で入ったが、検証を考えているのか。副題もサステナブルなまちを目指すに掲げている中で、大きな目標が⑤に入ってくるあたりの整理がいると思う。	大庭委員	【森中市長】既存ストック、空き家、公共施設を含めてどう長寿命化（またはリニューアル）するか、公共交通、高齢者や子どもの移動手段をどう確保するか等広い概念でのサステナブルなまちづくり。環境先進都市宣言まで想定したわけではない。
	温室効果ガスの量をどうするとか、それを守山市ではどう削減していき環境を重視したまちを進める、そのような野望までも含めたサステナブルなまちづくりかも聞きたい。	岡井委員長	【共通目標①】人口減少を見据えた持続可能なまち
PDCAについて	まちづくりの具現化方策はなくすのか。	横山委員	継続して項目として設けたいと考えている。
	全体の構成の中で、都市マスの進め方、推進体制、進行管理体制、仕組みを、「今後の進め方」として、大きな項目として設けられないか。計画書の後ろに、積み残しの課題を書き込んだ方が良い。	横山委員	現行の都市マスの中にPDCAの記載がないので、次の都市マスには書き込んでいく方向で、
	他の自治体でも、「推進のために」どうやっていくかは、計画の後ろに少し入っている都市マスもあるので、それを考えてもらえればいい。	岡井委員長	委員の意見の反映を考える。 【計画の推進方策】新たな章を追加して対応
	方向性があるか検証がいたと思ったので、手段の方向性として社会実験をしながら目的の方向性が正しいかどうかチェックしていくことは、書いてもいいのではないと思った。	石川委員	【森中市長】取組のスタンス、書ききれない話をどう進めるか、PDCAをどうするか工夫をしたい。
	人が安心して使える空間を確保するのが目的で、そのための課題があると都市マスで書いてあれ	岡井委員長	【事務局】方向性を大

項目	意見の内容	発言者	対応
	ば、課題を解消しないといけない。そのためにどんな取組をするか、次のレベルだと思う。		項目、中項目、小項目のレベルに書く。PDCAを
	PDCAの話をいきなり盛り込むのはどうかと思う。都市マスの運用や検証の課題から、今回の都市マスではこういうものを盛り込むというような、論理的な枠組みが盛り込まれるとよいと思う。	大庭委員	章立てで作るのか検討したい。推進体制の課題について、位置付けを助言いただきたい。 【計画の推進方策】 新たな章を追加して対応
具現化方策	まちづくりの具現化方策が、かなり具体的な話になるが、都市マスの中で示す必要があるかを検討してはどうか。	横山委員	【地域別構想】 地域別構想で対応